

(様式2・中学校用①)

令和6年度 学 校 評 価 報 告

草加市立谷塚中学校

(令和7年2月7日作成)

1 学校教育目標 ○学び合う生徒（知） ○思いやる生徒（徳） ○高め合う生徒（体） 校訓「文武両道」	
2 重点目標・努力目標 1 信頼される学校 2 確かな学力の育成 3 豊かな心の育成 4 健やかな体の育成 5 教育課程の改善	3 前年度の成果と課題 成果 ○幼保小中を一貫した教育の研究では、3つの部会に分け各部において指導者を招いての研究授業や研修を行い、先生方の資質向上につながった。 ○各行事で、生徒が企画・運営を主体的に取り組み、一人ひとりが達成感を感じるものとなった。縦割りの行事もあり、谷塚中学校のよき伝統を後輩に引き継いでく雰囲気を作られている。 ○授業・部活・委員会・行事に落ち着いて取り組める雰囲気を作られている。学習面では、県学力学習状況調査、市学力学習状況調査の結果から、県や市の平均を上回る教科が多い。 課題 ●一貫教育における研究では、各部の研究授業や研修を行ったが、一部の先生に負担が偏っているため、先生方一人ひとりの資質向上につながるようにしていく。 ●各クラスに配慮を要する生徒が在籍しているため、生徒の小さな変化を見逃さず、アンテナを高くして生徒の日々の様子を注視していく。 ●経験の浅い先生が多く在籍しているため、研修や相互での授業を参観する機会を確保していき、学校全体の教育力の向上につなげたい。 ●安全面について、大きな事故は起きていないが依然として施設の老朽化が見られる。日々の安全点検や安全指導を今まで以上に徹底していく。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○授業は、コミュニケーションの機会を多く設け、学び合う姿が多く見られた。 ○行事では生徒が主体的に企画運営をして学年間での交流をしながら各行事に取り組むことができた。 ○学校全体の行事に組織的に対応ができ、経験の浅い職員も学びながら行事に取り組むことができた。 ●学校運営を円滑にできているが、以前として分掌に偏りがある。授業数も多いため、より学校全体で組織的に対応する必要がある。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○令和5・6年度の委嘱研究で、学校の課題解決に沿った研究・研修を取り組んだ。 ●研究授業・まとめ等、一部の先生に負担が偏ってしまった。 ●研究の成果を踏まえ、教育課程を見直し、生徒のよりよい成長につなげる必要がある。

③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○養護教諭・保健主事を中心として、保健指導に学校全体で取り組むことができている。 ○不審者対応の避難訓練を外部の方を講師として取り組むことなど、日々の学校の安全について意識が高まった。 ●日々の安全点検や緊急事態発生時の対応について、多くの場面を想定して、危機管理について学校全体で共通理解を図り、生徒がより安心安全に学校生活を過ごせる環境をつくる。
④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットPCを授業や委員会だけでなく、生徒の多くの活動にも活用ができている。 ●タブレットPCの経年劣化や端末の故障が増えている。学校全体で端末の管理について再度、検討する必要がある。 ●施設の老朽化や不具合が依然としてある。市教委と連携しながら、修繕を進めていく。
⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会を定期的に開催して、学校運営に助言を頂きながら学校運営ができている。 ○保護者や地域・学区の小学校の保護者が学校の様子を参観できる機会を設け、多くの保護者が参観できた。 ○今年度も市民防災訓練では、地域と協力して訓練を実施することができた。 ●PTAや地域との関わり等、大きく変わってきている。今後も連携を図り、地域に誇れる中学校を学校全体で目指していく。
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各部会を中心として研究を行い、今年度は「自己肯定感・自己有用感を育む授業づくり」に関わる研究発表を開催することができた。 ○学区の小学校をほとんどの職員が1度は参観する機会を設け、一貫教育の視点を取り入れた授業改善のきっかけを作ることができた。 ●担当を中心に活動を行ったが、担当や授業者に多くの負担となってしまった。今後は、より学区全体で研究を進める必要がある ●今後の改めて、中学校区での課題を共有して、目指す子ども像にむけた取り組みを協議していく。

(様式2・中学校用②)

草加市立谷塚中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅱ 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○どの行事も生徒が主体となって企画・運営して、多くの行事を通して、生徒の成長を感じられる場面が多く見られた。 ○生徒の実態を踏まえ、各学年を中心に安全に配慮した中で工夫した活動が多く見られた。 ○縦割りの活動を通して、先輩がよいところを後輩に引き継いでいく姿が多く見られた。 ●一部の先生に負担が依然としてあるため、行事の進め方についてはより組織的に役割を明確化する必要がある。 ●先生方の授業時数が多く、出張の場合は多くのクラスが自習となってしまう。振替を行い、自習を少なくするように努める。

②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用 	B	<p>○多くの教科で3年間の指導を見通した、指導計画、課題や単元の問いを作ることができている。</p> <p>○ICTを活用した、個に応じた指導や支援をできるようになってきている。</p> <p>●わかりやすい授業を心がけているが、至らない点も依然としてあるため、どの生徒にもわかる授業づくりを作っていく。</p> <p>●各教科での連絡調整が十分でないこともあり、評価評定の工夫は改善の余地がある。</p>
③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進 	B	<p>○ローテーションでの授業により、学年の多くの職員と関わることができて、十分に時間が確保できている。</p> <p>●道徳の評価については今後も議論をしていき、改善をする必要がある。</p>
④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動 	A	<p>○研究の成果を発表するなど、学級経営や学級会など生徒自身でクラスを自治する姿が多く見られた。</p> <p>●今後の限られた時間の中で実施をするため、年間指導計画を見直して継続的に指導をする。</p>
⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	A	<p>○各学年の実態に応じて、生徒が探究的な学習に取り組むことができた。</p> <p>○年間指導計画にスキルトレーニングを組み込み人との関わり方について考えながら取り組むことができた。</p> <p>●地域との関わりを探究する学習の時間を立てるなど、より充実させた計画を立てる必要がある。</p>
⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○大きな指導もなく、生徒は落ち着いた学校生活を過ごすことができています。</p> <p>○指導の際にも迅速に、組織的に対応が図られている。</p> <p>●生徒指導・教育相談の内容がより複雑化している。保護者の考えや学校の支援体制など、組織的な対応が今後も必要である</p> <p>●時代にあわせ、校則の一部が変わったが、今後も校則については見直しの余地がある。</p>
⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動 	B	<p>○昨年度に引き続き、総合的な学習の時間で進路について、各学年で外部の教材を取り入れるなど、生徒の学びを深めさせることができた。</p> <p>●職業体験が次年度から行う予定があるため、年間指導計画を見直し、3年間を見通したキャリア教育ができるようにする。</p>
⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<p>○生徒同士がそれぞれの個性を理解して受け入れあえている雰囲気がある。</p> <p>○学校全体で適切な支援の体制ができている。また外部機関との連携も取れている。</p> <p>●担任や担当の職員が不在の際の支援には課題が見られるため、日々の様子を情報交換するなど情報共有をより図る必要がある。</p>
⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	B	<p>○図書館の利用が授業を始め、図書委員の生徒を中心に利用しやすい環境となっている。</p> <p>●一部の先生頼みの図書館運営となってしまうため、運営の仕方については再度検討する必要がある。</p>

⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	B	<p>○タブレットPCでの活動が学校生活では必需品となっている。</p> <p>○生徒は自分で考え、調べ、考えを伝えるためにスライドを活用して自分の意見を発表することができている。</p> <p>●タブレットPCの経年劣化も含め、故障や不具合が多くなってきている。故障により、予備機も十分でないため管理を徹底する必要がある。</p> <p>●新しい機能やアプリが搭載されるたびに初期設定や登録に時間を要する場合があるため、活用の周知徹底を再度が図る。</p>
⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<p>○生徒同士がお互いを尊重する場面が見られ、学校生活を通して育まれている。</p> <p>●人権について、教師の学びの機会を確保する必要がある。人権問題についてはアンテナをより高くして全体での意識を高める。</p>

(様式2・中学校用③)

草加市立谷塚中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	○学校間連携教育	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内小学校との連携、協力 ・近隣の地域の幼保との交流 	A	<p>○今年度は11月に3校での中学校区の研究発表を実施して、授業や研究の成果を発表することができた。本校の職員が1度は小学校の授業を参観して授業を見直す機会になった。近隣小学校(谷塚小、氷川小)とのあいさつ運動や授業参観、引き取り訓練、1日体験についても昨年度同様に実施ができた。</p> <p>○3部に分けての取り組みではプレ授業や研究授業その際の研究協議や指導を通して、学級経営・コミュニケーション、個に応じた適切な支援について研修を重ねた。目指す子ども像に向けた取り組みを学校全体で実施することができ、中学校区全体での自己肯定感・自己有用感を高めることにつながった。</p> <p>●令和5・6年度で研究委嘱を受けたため、今後は学校区で目指す子ども像や目指す子どもの実現にむけた具体的な取り組み、学校区での協議をして取り組み必要がある。</p>
	○個に応じた適切な支援 (不登校対応、教育相談 いじめ防止 等)	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な支援 ・研修計画 ・学校全体での支援体制の構築 	A	<p>○年間指導計画にスキルトレーニングを取り入れ学校や学年の実態に合わせた指導ができた。研修の機会を設け、より生徒が考え、実践できるような授業を展開している。</p> <p>○教育相談部が中心となって、個に応じた適切な支援や不登校対応について組織的な支援を関係機関と協力して、継続的に行われている。</p> <p>●学校全体で生徒一人ひとりの実態を十分に把握して、よりよい支援を継続して行う。そのために、日々の生徒の情報交換を密に取っていく。</p> <p>●いじめ防止については、生徒指導部を中心として学校全体で協議して、組織的に対応しているが、日々の学校生活でのいじめ防止、いじめをしない・見逃さない雰囲気づくりを今後も推進していく。</p>

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

幼保小中を一貫した教育では昨年度に引き続き、3つの部会を中心に授業研究や研修の機会を設けた。授業や研究の成果を11月に発表することができた。学級経営やスキルトレーニング等、学校の課題解決にむけた内容を多くの方に指導いただき、先生方の資質向上につながった。研究を通して、中学校区の児童生徒の自己肯定感・自己有用感が高まった。

教育活動全般を通して、生徒の実態を踏まえ、授業や行事が行われている。合唱コンクールを3学年そろって開催ができた。学校公開や授業参観では多くの保護者が学校に足を運んでいただいた。さらに中学校区の小学校の保護者も参観できるようにした。各行事で、生徒が主体となって企画・運営をして、一人ひとりが達成感・充実感を味わうものとなった。昨年度に引き続き生徒会主催の行事では、昼休みに全校のほとんどの生徒が参加するなど、大いに盛り上がりを見せた。各行事の取り組みの中には縦割りの活動も多く、よき伝統を後輩に引き継いでく雰囲気が作られている。今後も生徒が主体的に活動して、活躍する場を増やしていきたい。

どの学年も授業や行事に落ち着いて取り組める雰囲気が作られている。授業ではタブレットPCを活用して自分の調べたことや考えをスライドにして、伝えることができる。各クラスに支援を必要とする生徒が在籍しているが互いを理解して、協力的な雰囲気がある。今後も継続的、組織的な支援を充実させ、一人ひとりがお互いを尊重する場をより多く増やしていきたい。

6 次年度の改善策

一貫教育における研究では、各部の研究授業や研修を学校全体で取り組んだが、授業者や部の中心の先生に負担が偏ってしまった。一貫教育や学校研究について次年度以降、研究組織を見直し学校全体で取り組むものとしていく。また、目指す子ども像を見直し、目指す子ども像の実現にむけた取り組みを再度、協議する必要がある。

学習面では、どの授業も意欲的に生徒は活動をしているが、学力調査の結果から学習内容の定着や伸びには課題が見られる。また、学習課題を十分に取り組むことができず、授業に不安を抱える生徒もいる。改めて、1つ1つの授業を大切にして学習内容が定着するように指導をしていく。

各クラスに配慮を要する生徒が在籍しているため、個に応じた支援を学校として組織的な支援を継続していく。どの学年も落ち着いた雰囲気で学校生活が過ごせているが、生徒の小さな変化やいじめの兆候を見逃さず、アンテナを高くして生徒の日々の様子を注視していく。

次年度についても限られた時間ではあるが、研修や相互での授業を参観する機会を確保していき、授業力を向上させ、学校全体の教育力の向上につなげたい。

安全面について、大きな事故は起きていないが依然として施設の老朽化が見られる。日々の安全点検や安全指導を今まで以上に徹底していく。校舎や施設の老朽化については、市教委と相談の上、計画的に修繕を進めていく。